

## 国語教科書に現れる直喩表現に関する調査報告

岩男 考哲

### 1. はじめに

筆者は岩男(2014)において、光村図書の国語教科書に現れる直喩表現の性質が学年を追う毎にどう変化するかを調査した結果を報告した。しかし、そこでの調査対象は光村図書の国語教科書に限られており、他の出版社の教科書の状況が不明なままであった。そこで本稿では、その他の出版社(東京書籍, 教育出版, 三省堂, 学校図書)を、岩男(2014)で用いた観点と同じものを用いて調査した。以下は、その調査結果の報告である。

### 2. 本稿で用いる観点

調査結果の報告を行う前に岩男(2014)で用いた観点についての説明をここで再掲する。詳しくは、岩男(2014)を参照されたい。

岩男(2014)と本稿では、瀬戸編(2007)で提示された「形態類似」「特性類似」「機能類似」という観点から、国語教科書に現れる直喩表現を分類する。

形態類似とは形の類似性に基づいた比喩のことで、例えば「(人間や動物の)首」と形の似た、瓶等のすぼまった部分のことを「(瓶の)首」と呼ぶような比喩を指す。

次に特性類似とは異なるカテゴリ間に共通する特性が見いだされる比喩を指す。具体的には「(入れ物が)空である」という特性と「(人生が)空である」という状態の間には<中身が存在しない>とでも言うべき共通した特性が見いだされている。これが特性類似の例である。

最後に機能類似とは働きや作用の類似に基づいた比喩である。「敵を攻撃する」と「考えを攻撃する」では、物理的か否かという点では異なりを見せるが、対象にダメージを与えるという類似点は見いだせよう。

以上が本稿が基づく概念の紹介である。なお、分類にあたり、複数の類似が重複すると考えられる表現も存在した。例えば、次のような例がそれにあたる。

(1) 水中ブルドーザーみたいないせえび。 (スイミー)

これは、外見がブルドーザーに似ていると解釈すれば形態類似であるが、その手足で水中の砂等を運ぶという働きがブルドーザーに似ていると解釈すれば機能類似である。こういった、複数の類似点が重複していると解釈できる場合、本稿では両方の比喩((1)だと、形態類似と機能類似)を備えたものとして、それぞれ1回ずつとしてカウントした。

### 3. 調査結果の報告

それでは、2節で提示した観点から各出版社の直喩表現を分類した結果を表にまとめたものを以下に提示する。

東京		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
総数	95	2	11	15	3	8	13	9	15	19
形態	58	2	9	12	1	4	6	4	9	11
機能	16	0	2	2	1	2	3	0	1	5
特性	21	0	0	1	1	2	4	5	5	3

三省堂		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
総数	80	1	4	5	8	4	12	11	17	18
形態	39	1	0	1	4	2	7	4	11	9
機能	4	0	0	0	0	0	0	2	2	0
特性	37	0	4	4	4	2	5	5	4	9

教育		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
総数	93	1	8	2	6	6	7	15	18	30
形態	47	0	4	1	3	3	4	10	9	13
機能	8	0	1	0	1	1	0	0	3	2
特性	38	1	3	1	2	2	3	5	6	15

学校		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
総数	122	0	9	5	14	7	12	18	21	36
形態	60	0	7	4	9	5	6	6	9	14
機能	6	0	1	0	1	1	0	0	2	1
特性	56	0	1	1	4	1	6	12	10	21

東京＝東京書籍，教育＝教育出版，学校＝学校図書

そして、岩男(2014)で提示した光村図書の調査結果も含め、全ての国語教科書に用いられる直喩表現の数を合計した表が以下である。

全出版	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
総数		3	40	27	36	31	50	64	86	122
形態	243	2	27	18	20	18	26	29	47	56
機能	47	0	5	2	4	4	5	4	11	12
特性	169	1	8	7	12	9	19	31	28	54

#### 4. おわりに

以上、本稿では岩男(2014)で今後の課題とした、光村図書以外の出版社の国語教科書の調査結果の報告を行った。本稿では、調査の結果を報告するに留める。この結果に基づいた全出版社の国語教科書を対象とした更な

る分析は次の課題としたい。

【参考文献】

岩男考哲(2014)「国語教科書における『表現の工夫』に関する覚書」『信大国語教育』  
第24号, pp.63-69, 信州大学.

瀬戸賢一(2007)「メタファーと多義語の記述」楠見孝編『メタファー研究の最前線』  
pp.31-61, ひつじ書房.

鍋島弘治朗(2009)「シミリはメタファーか？—語用論的分析—」『日本語用論学会第  
11回大会発表論文集』pp.63-71.

【付記】

本稿の執筆にあたり、信州大学教育学部の小林美苗氏、福永桃与氏、宮下健太氏が  
提供して下さった資料が重要な役割を果たした。心より御礼申し上げます。なお本研  
究はJSPS 科研費(24730731,30578274,24330243)の助成を受けている。

(いわお たかのり 信州大学教育学部)